

2014年韓国順天大学(SCNU)・秋田県立大学(APU)合同シンポジウム 実施概要報告

平成26年度国際交流プログラム支援事業として採択された「2014年韓国順天大学(SCNU)・秋田県立大学(APU)合同シンポジウム」に平成26年11月24日～27日の日程で教員3名(学部長間接経費にて渡航:岩崎郁子 准教授 宮田直幸准教授 曾根千晴 助教)、大学院生2名(秋 徳康 羽生田光志)、ならびに引率教員 藤晋一准教授が順天大学を訪問しましたので下記の通り、その概要を報告します。

シンポジウムは、11月25日9:30から生物産業科学大学において行われた。Kim Joon Sun 学部長の挨拶の後、秋田県立大学 参加者を代表して 藤 晋一准教授が挨拶を行った。

午前中は各大学3名の教員の研究発表が行われた。

午後は、教員4名が Song Yeong Moo 総長を表敬訪問し、一昨年の訪問(大学間協定締結)後の各大学の動向などについて報告、今後の交流の拡大について意見交換がなされた。

14:30からは大学院生各2名の研究発表が行われた。参加学生の英語での発表は流暢で、質疑にも的確に英語で返答していた。また、シンポジウム終了後も本学大学院生は、順天大学教員から、質問を受けていた。

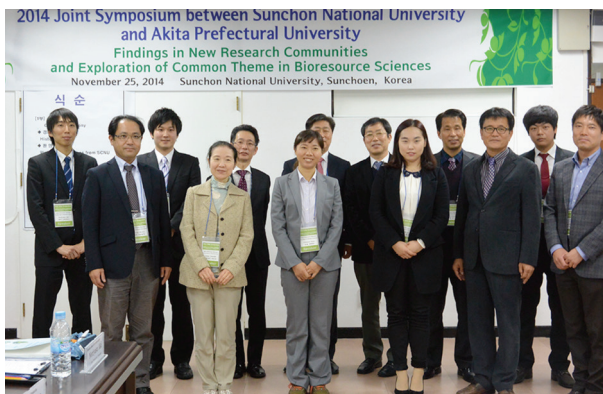
11月26日午前中は、それぞれのカウンターパート教員あるいは、共同研究の可能性がある研究室の訪問を個々に行った。

Park Kyunam 工学部長と面談を行い、次回は2016年に秋田県立大学で工学系を中心としたシンポジウムを開催する旨を伝えた。ただ、お互いの工学系学部でどのような研究をしているのかわからないことから、お互いの学部の教員紹介を英語で作成し交換することが提案された。また、すべてを工学系学部で行うのは困難なので、今回の Cheong Cheongjo 准教授、宮田直幸准教授の様な、異分野融合の課題を含めて Joint Symposium を開催していく方向で調整することとなった。

Park Kyunam 工学部長は本年度で任期を終えるが、次の学部長にきちんと伝えるとのことであった。午後はラムサール湿地として登録された順天湾自然生態講演(葦群落地)を視察した。

学生間の交流について

今回参加した2名の大学院生は、順天大学から参加した2名の大学院生と滞在期間中活発な交流を行っていた。研究内容の交流だけでなく、お互いの文化交流も含めた有意義な交流ができたようであった。また、帰国後もメール等でのやりとりが続いているようである。



シンポジウム参加者記念撮影



総長表敬訪問

11月25日(火)

秋田県立大学(APU)・韓国順天大学(SCNU)合同シンポジウム(2014 Joint Symposium 'Findings in New Research Communities and Exploration of Common Theme in Bioresource Sciences')に出席した。Soo Im Choi 教授(Life Science and Natural Resource)の開会挨拶に始まり、Joonsun Kim 教授(Life Sci Nat Res)および藤晋一先生(秋田県立大学)による挨拶のあと、教員による発表が両大学から3名ずつ実施された。順天大学からはYong-Hwa Cheong 教授(生物環境科学)、Cheong-jo Cheong 教授(環境工学) Do-Gyun Kim 教授(ランドスケープ農学)、秋田県立大学からは岩崎、宮田直幸先生、曾根千春先生であった。大学院生は2名ずつの参加で、順天大学のKyeong-in Son 君, Juri Ham さん、秋田県立大学の秋徳安君、羽生田光志君による発表が行われた。両大学の学生同士の英語によるコミュニケーションの様子から、環境さえ整えば、研究上の交流はもちろん、様々な領域での交流も実現可能であるということ、彼らは肌で実感したのではないかと思う。若い人達の今後の活躍に期待したい。また、カウンターパートのYong-Hwa Cheong 教授(Dep. Bio-Environmental Science 生物環境科学部)から、主に陸上の高等植物の乾燥や塩ストレスに対するイオン輸送体の発現調節とシグナル伝達系に関する興味深い発表が行われた。翌日26日はYong-Hwa Cheong 先生の研究室訪問の予定であったが、先生の急なご都合であいにく都合を付けることができず、この日に主な意見交換を行った。

この日は順天大学 Yeong Moo Song (宗英武) 総長の表敬訪問もあり、2大学間の学術交流の経緯や今後の展望についての懇談を行った。

11月26日(水)

Jae-Seoun Hur 教授(Dep. Environmental Education 環境教育科学部)の研究室を訪問し、最近の地衣類研究の進捗について情報交換を行った。ファンド獲得によるレンタルラボを含めた実験室を見学し、地衣成分の効率的抽出法の紹介、菌類カタログ保存状況、エンドファイト培養、中国や東南アジア諸国との地衣類研究交流の現状、学内研究環境を含めて興味深く拝見(拝聴)することができた。研究室の学生は大学院生を含めて10名程度、これに技官やテクニシャンが加わり、研究室体制の規模はかなり大きい。本学の小規模な研究室体制とはだいぶ異なるが、研究上の情報交換を今後も続けて行く必要性を感じた。この度の学術交流事業を機に共同研究を含めて今後の展開を考えていきたい。

滞在期間中は丁寧かつ周到的な準備がなされており、さらに日本語に堪能な交流コーディネーターによる親切な対応を頂いてたいへん気持ちよく過ごすことが出来た。



順天大学校内

11月25日（火）

合同シンポジウム「2014 Joint Symposium Findings in New Research Communities and Exploration of Common Theme in Bioresource Science」に出席し、順天大学 Yong-Hwa Cheong 教授（生物環境科学）、Cheong-jo Cheong 教授（環境工学）Do-Gyun Kim 教授（ランドスケープ農学）のほか、2名の大学院生の研究発表を聴講して討議を行なった。Cheong-jo Cheong 教授及からは順天湾の水質・生態系に関する報告があった。Cheong-jo Cheong 教授との討議の中で、都市部からの負荷が大きな問題となっており、栄養塩除去を目的とした高度下水処理（A2O法）が導入されているとの興味深い報告があった。秋田県立大学からは、藤晋一先生による挨拶のあと、岩崎郁子先生、宮田、曾根千春先生の各発表があり、その後2名の大学院生（秋徳安君、羽生田光志君）による発表も行われた。2名とも十分に英語発表の準備をしてきており、順天大学の大学院生と同様に堂々と成果をアピールできていた。本学学生2名の英語発表のレベルは順天大学の大学院生2名と同程度との印象をもった。今回の訪問と研究発表の機会を得て、2名の大学院生は大きな自信がついたのではないかと感じた。

またシンポジウムの途中（14：00～14：30）に順天大学 Yeong Moo Song 総長を表敬訪問し、これまでの学术交流の経緯や今後の展開等について懇談させて頂いた。

11月26日（水）

今回の訪問のカウンターパートである工学部環境工学科・Cheong-jo Cheong 教授の研究室を訪問し、研究内容の説明を受けた。Cheong 教授の研究室ではラムサール条約に登録されている順天湾湿地/干潟の水質保全に関する研究を行っており、順천시との共同プロジェクトにより、都市部等からの流入河川による汚濁物負荷や湾内における汚濁物濃度の消長についてモニタリングを鋭意進めてきた。秋田県の八郎潟残存湖には植生帯は殆ど残されていないが、流域（農地、市街地）からの負荷が湖内の富栄養化の原因となっていることから、地域の水環境保全に資する研究として、我々の研究グループと研究の方向性は一致していた。また Cheong 教授をはじめ、各研究室の学生数は5名程度と小規模で、多くは学部で卒業し大学院への入学者は少ないとのことであった。本学の研究室の状況と似ており、この点でもお互いに相手先の事情をよく理解しつつ実質的な交流が図れるものと感じた。この学术交流事業を通して共同研究を含めた今後の展開を考えていきたい。



11月25日（火）

9時半より17時まで、秋田県立大学と順天大学校の合同シンポジウム「2014 Joint Symposium Findings in New Research Communities and Exploration of Common Theme in Bioresource Sciences」に出席した。シンポジウムでは、順天大学校および秋田県立大学よりそれぞれ教員3名、大学院生2名の発表があった。その中で、Do-gyun Kim 教授からは、ラムサール条約に登録されている順天湾近辺の樹木種を調査した報告があった。生育地の土壌 EC 値ごとに樹木を分類し、その結果は造園に利用され、産学連携の点からも興味深い研究であった。院生の発表では、秋田県立大学から秋徳安君と羽生田光志君が、ポリシリカ鉄（PSI）発生泥の効果的な利用とブラックジンジャーの水耕栽培法の開発について発表を行った。2名とも発表資料の準備、練習ともよく行ってきており、発表後の質疑応答にもきちんと対応していた。順天大学校の院生たちとも、英語を使ってコミュニケーションを図り、異なる国および大学の同世代の学生と交流することで、自分たちの研究のモチベーションも高められたようであった。シンポジウム中、昼食後に順天大学校 Yeong Moo Song 総長を表敬訪問し、これまでの交流の振り返りや今後の交流について懇談した。

11月26日（水）

カウンターパートの Do-gyun Kim 教授が不在のため、宮田先生に同行し、順天湾の水質保全に関する研究を行っている工学部環境工学科の Cheong-jo Cheong 教授の研究室を訪問した。Cheong-jo Cheong 教授の実験室および研究室、他の工学部環境工学科の実験室の見学を行った。午後に、Do-gyun Kim 教授の研究室を訪問した。Kim 教授は、造園学を専門とし、地域の植生や植物の特性を考慮した庭園設計を行っている。約10年前まで造園家として企業に勤め、現在も造園を請け負っているということであった。研究室では、環境条件を変えた時の植物への影響を実験を通じて体感させ、植物栽培のことを理解した造園家の育成を目指していた。実際に、順天大学校の造園学部門は韓国内に多くの造園家を輩出しており、就職率が高く、学生の人気も高いということであった。また、Kim 教授は、塩害や潮風害の発生する順天湾付近の緑化にも取り組み、秋田県の八郎潟干拓地や防風林に興味があり、本学との共同研究にも関心があった。

滞在期間中、順天大学構内には秋田県立大学学術訪問団一行の歓迎の旗と、電子掲示板にテロップが流され、我々の訪問に対する入念な準備を感じた。また、日本語に対応した交流コーディネーターが常に同行してくれ、快適に過ごすことが出来た。



順天大シンポジウムを通じて

生物資源科学研究科 1年 秋徳康

目的

2014年11月24日(月)～27日(木)にかけて、韓国の順天で行われる2014秋田県立大学(APU)・韓国順天大学(SCNU)合同シンポジウムに参加しました。今回、参加した理由は韓国順天大学で行われている環境分野に関する研究に対して興味があったからです。また、英語で現地の人とコミュニケーションを取ることができることもあって、この合同シンポジウムに応募しました。

内容

一日目は、韓国の順天大学で韓国順天大学の教員と学生と研究成果についての報告が行われました。そこでは、秋田県立大学の教員と大学院生、韓国順天大学の教員と大学院生が研究成果を英語での口頭発表が行われて、お互いの意見を交換しました。

二日目は、韓国順天大学の研究室を訪問して、順天大学で行われている研究や機器の設備などを見て回りました。その後は、順天の周りの観光地を案内してもらいました。

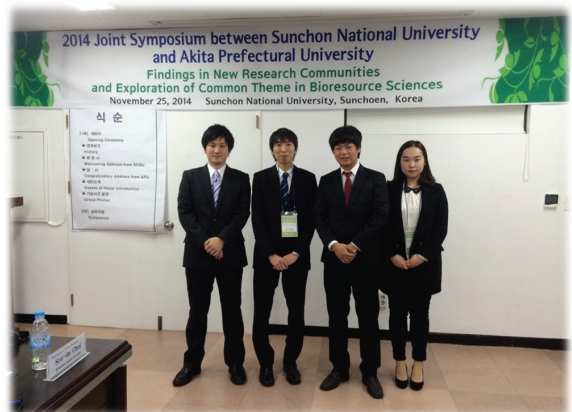
感想

一日目で行われた研究報告会では、お互いの研究内容や意見交換を英語で行う貴重な経験をさせてもらいました。普段は、学会でも日本語で発表する機会が多いので母国語でない英語で発表するのはとても難しく感じました。自分が知っている英語の知識の中から説明できるようにするのに色々考えて、英語を話したため相手にしっかり伝わっていない可能性もありました。このことから、英語をもっと勉強して今度こういった機会があるときは、相手にもわかるように説明したいと思いました。

二日目に研究室を訪問したのですが、日本では見たことがない機器や研究室ごとの雰囲気など県立大学とは異なることがあったりしてとても面白かったです。

全体を通しては、順天大学の大学院生と交流を深められたことは大変良かったと思います。秋田県立の学生と韓国の学生と話し合うことで勉学に対する姿勢の違いや考え方など様々なことが良い刺激となりました。これから、修論に向けて残り約1年研究する機会があるので、この機会を生かして研究を行っていきたいです。

これからもこういった機会があるときは、積極的に参加して自分の成長につなげていければと思います。



順天大学国際シンポジウムに参加して

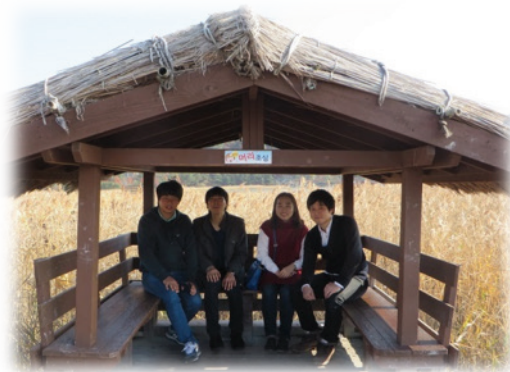


生物資源科学研究科 前期課程 1年

羽生田光志

3泊4日という短い期間だったが、私にとっては非常に内容の濃い充実した時間であった。今回のプログラムに参加したことで国際的なコミュニケーション能力を養うとともに視野を広げることができたと考えている。日頃、英語の論文を読んだり研究室の英語ゼミに参加したりと自分自身で英語を学んでいたが、なかなか学んだ英語を実際にアウトプットする機会がなかった。そういった面でも今回は自分にとって最高の機会であった。現地での会話やシンポジウムで自分の研究を英語で発表することを通して確実に英語力をつけることができた。将来的に英語で自分の取り組んでいる仕事の内容を説明したり、自己紹介したりする能力は非常に大切であるため、しっかりと自分の考えや気持ちを英語で順天大学の教授や学生に伝えることができ今では自信になっている。また今回が自分にとって初めての海外であり、見るもの感じるものが全て新鮮だった。異なる言葉、食べ物、文化を体験することで日本を客観的に見ることができ国際的な視野を広げることができた。日本にいただけでは知ることができない世界があると思った。実際に自分の目で見て肌で感じることの大切さを学んだ。順天大学ではカウンターパートの学生の研究室を中心に見学し、学生をはじめ教授の方々に暖かく迎えていただいたことが非常に嬉しかった。研究分野、学部の内容が近いこともあり、研究についてお互いに討論することができ非常に貴重な時間を過ごすことができた。お世話になった学生とは今も連絡を取り合う仲で非常に大切な仲間に出会うことができた。今回たくさんのことを学んでゴールというわけではなく、学んだことを活かして新たなスタートをする気持ちで日進月歩していきたいと考えている。

最後に、このような機会を与えて下さった大学、教員、順天大学の教授や学生、国際交流員の方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。



2014 秋田県立大学(APU)・韓国順天大学(SCNU)合同シンポジウム日程

<p>11月24日 (月)</p>	<p>秋田空港発 8:50</p> <p>麗水空港着 18:15</p> <p>ホテル着 20:00</p>	<p>秋田空港～羽田空港(JL1260) 羽田空港～金浦空港(OZ1015) 金浦空港～麗水空港(OZ8737)</p>
<p>11月25日 (火)</p>	<p>9:30～</p> <p>10:00～</p> <p>10:30～</p> <p>11:00～</p> <p>11:30～</p> <p>12:00～</p> <p>12:30～</p>	<p>合同シンポジウム 開会・経過報告 (Soo Im Choi 教授) 歓迎挨拶 (Kim Joon Sun 学部長) 秋田県立大学 代表挨拶 (藤 晋一准教授) 教員発表</p> <p>Functional Analysis of CBL-CIPK Complexes in Plant Abiotic Stress Signalings Yonghwa Cheong 教授</p> <p>Study of Intercellular Localization of Plasma Membrane Type Aquaporin in Rice Plant 岩崎郁子 准教授</p> <p>Water Quality in Suncheon Bay and Around Streams Cheong-Jo Cheong 准教授</p> <p>Biogenic Mn Oxides in Water Environments: Microbial Ecology and Application to Environmental Technology 宮田直幸 准教授</p> <p>Soil Salinity and Salt Spray Drift Tolerate of Native Trees for Ecological Planting in the Suncheon Bay, Jeollanam-do Do-Gyun Kim 准教授</p> <p>Characterizing Submergence Survival Strategy in Rice Via Chlorophyll Fluorescence 曾根 千晴 助教</p>

11月25日 (火)	14:00～	総長(Song Yeong Moo)表敬訪問
	14:30～	What Killed Yuzu (<i>Citrus junos</i>) Tree? Kyeong-in Son
	15:00～	Effective Utilization of Sludge from Water Purification Plant using Poly Silica Iron (PSI) 秋 徳康
	15:30～	Scopoletin Supplementation Prevents Hepatosteatosis in Diet-induced Obese Mice: Microarray Study Juri Ham
	16:00～	Development of Hydroponics Methods for Rhizome-using Medical Plant 羽生田 光志
16:30	閉会	
11月26日 (水)	9:30～	研究室訪問
	11:00～	工学部長(Park Kyunam)訪問
	13:00～	順天湾見学
11月27日 (水)	麗水空港発 11:15	麗水空港～金浦空港(OZ8734) 金浦空港～羽田空港(OZ1045) 羽田空港～秋田空港(NH0409)
	秋田空港着 21:20	